

議 会 広 報 広 聴 委 員 会 記 録

令和4年6月22日（水）
10時30分～12時11分
全 員 協 議 会 室

【出席者】 三浦委員長、村武副委員長、
肥後委員、村木委員、大谷委員、沖田委員、川上委員、小川委員、
上野委員、川神委員

【議長団】 笹田議長

【事務局】 河上局長、小寺書記

議題

1 第2回はまだ市民一日議会について……………資料1

- (1) 昨年の実施概要確認
- (2) 開催日決定
- (3) その他

2 SNSを活用した議会情報の発信について……………資料2

- (1) 他議会の取組確認
横浜市会
<https://www.youtube.com/playlist?list=PL49C0A3E1ADAA44AA>
- (2) その他

3 その他

【次回委員会開催予定日】 令和4年7月22日（金）午前9時から 全員協議会室

【議事の経過】

[10時 30分 開議]

三浦委員長

議会広報広聴委員会を始めたい。出席委員は10名で定足数に達している。本日はその他含め3点である。議題に沿って進める。

1. 第2回はまだ市民一日議会について

(1) 昨年の実施概要確認

(2) 開催日決定

三浦委員長

今日は日時などを皆と協議したい。1点目として、昨年度行ったはまだ市民一日議会（以下、市民一日議会）のチラシを見てほしい。今回が初めての市民一日議会になる議員もおられるので、簡単に説明させていただく。

コロナ禍により通常の議会報告会ができない中、特定の方にこちらへ出向いていただき、広い議場を使って広聴活動をしようと、犬山市の事例をもとに行ったものである。定員10名のところ応募が多数あって17名に参加していただき、持ち時間5分で意見を議場で発表していただいた。参加者は当時の中学生、高校生、一般の方、年代も幅広く参加していただき、さまざまな意見をいただいた。市内の小中学校へは文言や表現を少し変え、2種類用意して配布した。基本的には前回の手法を踏襲し、今年度に第2回も検討しているが、細かいことは今後決めていくにしてもそろそろ日時を確定しスケジュールを立てて進めたい。

実施概要についてこの時点で皆から質問があれば伺う。

大谷委員

日にち以外で今日決めることはあるか。

三浦委員長

第2回市民一日議会のスケジュールイメージを用意した。このような形で進めようと思う。まず開催日時を決め、それに伴う申し込み締め切り、募集開始のめどをある程度立てたい。事務局から補足はあるか。

小寺書記

第1回の周知方法を資料に掲載している。これを今回また引き続きやるのか、加えてこのようなこともやったほうがよいといった提案をいただければ。

三浦委員長

いかがか。

川上委員

去年は定員10名で最終的に17名になった。今年もそういう形に

するのか、それとも10名なら10名にするのかを決めておいたほうがよい。

三浦委員長

人数も今日決めておきたい。

大谷委員

万が一定員を超える応募があったとき、その決め方について。前回のように入選なのか、あるいは発言機会が少ないと思われる若年層を優先するのか。そのあたりは考えなければいけない。大人にはいろいろな発言機会があるので、考慮しながら。広聴という視点を生かすならそのあたりも話しておいたほうがよい。

三浦委員長

定員を決める際に、今のご意見を取り入れて皆と協議したい。ではまずスケジュールから決めさせていただいてよろしいか。事務局から提案があるか。

小寺書記

10月の、第1回と同じ日曜日でよいかどうかと、時間帯は午後2時からでよいのか。9日は3連休に当たるのでそこは避けたほうがよいということで、16日か23日かどうか。

三浦委員長

10月16日日曜日、前回同時刻の14時から16時、もしくは翌週10月23日同じく日曜日の14時から16時、いずれかの日程を実施日としたいと提案するものだが、いかがだろうか。よろしいか。

(「異議なし」という声あり)

では16日日曜日。

村武副委員長

16日は予定が入っているので、もし可能であれば23日にお願いしたいのだが。

川神委員

私はできれば16日が望ましい。23日は予定がある。

村武副委員長

私のほうが何とかする。

小寺書記

午前中でもよいかとは思ふ。その辺も調整していただければ。

三浦委員長

では10月16日。

大谷委員

記憶が定かではないが、若年層のために中間試験などの期間と重なってないかを確認しておいたほうがよいかと思う。

川上委員

一応10月16日をめどとしておいて、あとは確認して再度報告いただく形にさせていただければ。

三浦委員長

では一旦10月16日をまず候補日と決め、学校等における試験スケジュールはそれによって配慮する可能性があるということで、こちらで確認させていただきたい。10月16日日曜日、午後2時から4時。会場は同じく浜田市議会本会議場でよろしいか。

(「異議なし」という声あり)

- ではそのようにさせていただく。したがって開催が10月の中旬となる。事務局から提案があるか。
- 小寺書記 昨年1か月間としていた。それは発言が決定してから発言者の方々に準備をしていただく期間を十分取ろうということでの設定だった。今回も同様に10月16日ということであれば、1か月取って9月7日水曜日あたりに設定させていただければと思うが。
- 三浦委員長 事務局の提案に異論がないようなら9月7日を申し込み締め切りとさせていただきたいがよろしいか。
- (「異議なし」という声あり)
- では9月7日。募集開始はチラシができ次第にはなると思うが、遅くとも1か月前、もしくはできるだけ早くになると思う。事務局から何かあるか。
- 小寺書記 8月上旬と考えているので、チラシができ次第でできれば。
- 三浦委員長 募集開始は8月上旬ということで、チラシができ次第、順次開始する。募集開始に当たって昨年度に行った告知方法としては、チラシ、ポスターの配置、はまだ議会だよりへの折り込み、ホームページへの掲載、ケーブルテレビでの告知、市の公用車へのステッカー貼りつけ、総合窓口課のモニターの掲示、広報はまだへの掲載といった方法。基本的にはこういった形で今年度も行いながら、各議員にはポスターを自宅近辺の各種施設への掲示協力をお願いした経緯もあるので、できるだけ町なかの目につくところにポスターが貼られるよう、各議員にご協力いただきたい。基本的にこの周知方法で進めさせていただいてよろしいか。
- 小寺書記 9月7日とは言ったがはまだ議会だよりに折り込むことを考えたら、発行日が9月1日になってしまうので、申し込み締め切りは14日水曜日あたりでどうか。
- 三浦委員長 では単純に1か月前で。曜日にこだわりがあるのか。
- 小寺書記 週の真ん中なら前後の連絡がしやすいかと思ってこの設定にしている。
- 三浦委員長 1日に折り込んで2週間、14日でよいか。
- (「異議なし」という声あり)
- では9月14日に改めさせていただく。日程と告知方法については確定した。基本的には発言時間5分をベースに日程を考えて10名と設定したが、5分が適当という意見が多かったかと思う。今

年度も5分と考えたときに定員10名で提案したいと思う。皆から人数について意見を聞きたい。

(「なし」という声あり)

では10名に設定したい。応募者多数の場合は基本的には抽選による発言者の決定。今回は特例なしで10名で行いたいと思っているが、先ほど若年層を優先すべきという意見もあった。応募者が10名を超えた場合の選定基準について、皆から意見を。

川神委員

去年も当初は定員10名としていたが多数の応募者があり、初めてのことであるし若年層の方もいらっしゃるの、何とか参加を認めようという流れをつくった。そもそもそうすると定員を決めることが意味をなさなくなる。今年はきちんと抽選をすることによってよいと思うが、去年はこうだったのではないかと市民に問われたらどのように説明するか、決めておかなければいけないのでは。例えば前回手を挙げた方がまた今年も手を挙げられたとき、もしも抽選で落ちたら。私はなるべく新規の参加者が優先されるべきだろうと思っているが、どのようなやり方にするか。若年層の参加割合を確保したければ最初からそううたえばよいのか。どう決めるか、意見交換をしなければいけない。

小寺書記

今年3月17日の全員協議会の際、令和4年度の広聴活動について、第2回市民一日議会をやると全議員にお示ししたが、予定定員10名、初めての応募者を優先、応募多数の場合は抽選と皆にお知らせしている。

三浦委員長

全員協議会ではそのように計画をしていると報告しているが、まだ詳細を当委員会で協議したわけではないので。先ほど問題提起があったように、そもそも定員を設けるべきか、初めての方を優先するのか、若年層を優先すべきなのか。そうした条件部分は皆から意見をいただいてルールを決めたい。

小川委員

広報広聴のテーマの中に主権者教育という観点もあって、去年は高校生も3人参加された。もし仮に抽選に漏れた場合は機会がなくなると心配していた。特に高校生が参加を希望された場合、落選すれば今抱えている問題意識を発表する場は恐らくないと感じるので、できる限り優先してほしい。昨年参加された方については、仮に応募者多数になった際にはやはり初めての方をできる限り優先すべきだと思う。

- 川上委員
肥後委員
大谷委員
上野委員
村木委員
沖田委員
三浦委員長
村武副委員長
笹田議長
三浦委員長
- 私も初めての方を優先すべきと思う。
- 初参加の方、若い方、もう一つつけ加えるとしたら提案型の意見を述べてもらえる方を選考基準にしてもらえればと思う。
- 要綱の中にこういう基準で10名選ぶと当然明記しておかなければならない。こちらの指示がうまく伝わり、意を理解した上で多くの応募が出るよう考慮しながらチラシをつくる必要がある。
- 提案型でかつ若い方を優先して出していきたい。
- 初めての方、若い方に賛同する。
- 考え方は同じである程度初めての方を優先すべきと思う。学生枠を設けるのも方法かと思ったが、ではその枠が何人だったらよいのか。線引きをすとかえって難しくしてしまうのかもしれない、整理がつかないので、皆と同様に初参加の方となるべく学生を優先してあげたい。
- 昨年の実施に向けた議論の中で、若年層をどうするか、優先すべきでないかという議論もあったように記憶している。対象を学生に絞って学生のための市民一日議会をやるべきではないかといった意見もあった。私も皆の意見を伺いながら、確かに若者から意見を聴く機会は少ないように思うし、そうした機会を設けるべきだと思うが、一般の方や学生の意見は同じものなので、逆に一般の方の機会を損失してしまうのは少し難しいのではと思った。ただ、初回の方は優先すべきと思う。
- 初めての方はよいと思う。もちろん気持ちとしても若者にたくさん出ていただきたいと思うが、表現の仕方が非常に難しいのではと感じている。若年層と明記したらほかの年代からの応募が少なくなるかもしれない懸念がある。
- 私は昨年小学生向けのチラシをつくった。実際、中学生や高校生の参加者もいて、よい雰囲気できたと思う。今回参議院選挙もありテレビを見ていると、若者は選挙に行かないと言う。市政に参加してほしいという願意も含めて市民の意見を聴く場になればよい。何かしら参加しやすい環境をつくってあげないと、逆に一般の人が参加しにくい雰囲気にならないかと危惧している。前回は議員から声をかけて高校生が参加したというところもある。物が言いたいという形で参加してもらうのが望ましい。
- 若者の意見を議会に届けてもらう場として開催したい思いは昨

年に引き続き持っているが、それを踏まえて募集をどうするか各委員の意見を受け、改めて皆から提案があればいただきたい。

小川委員

私も小学生・中学生・高校生それぞれ5人ずつくらいが妥当な線かと思っていた。

川神委員

市民子ども会議のような子どもに特化して実施しているところもあれば未成年中心としているところもある。いずれは浜田市も検討しないといけないが、午前子どもで午後大人といった分け方をすればどうか。あるいは先ほどの提案のように年齢層によって人数を決めることも。子どもの意見を酌み上げるには何らかの方策が要るのでは。

沖田委員

去年も前半は子どもで後半は社会人の方という流れだったかと思う。市民一日議会のくくりでやったとはいえ、2部構成的になっていた気がする。分けるのも一つの方法かと思う。多少定員が変わって時間が長くなってもやむを得ない。

河上局長

前半は子どもたちの夢のある提案、後半は大人が今の市政をしっかり見た上でされる提案。昨年の例を外野から見ていた感想である。見る側も見やすいかと思う。

三浦委員長

前はコロナ対策もあって前半・後半で席の入れかえをした。そういう運営方法も今後考えていかなければいけない。前後半で分けたほうがよいという意見と、年齢などで線を引いたほうがよいという意見、もう一つは区切らないでやる。区切るか、区切らないかが大きい。

川上委員

区切ってやってもよいのだろうが、18歳未満の意見と大人の意見、お互いに聴くとなると一緒にやったほうがよい。

三浦委員長

暫時休憩する。

[11時 5分 休憩]

[11時 34分 再開]

三浦委員長

会議を再開する。改めて確認する。日時については10月16日、日曜日の2時から6時、定員は10名、初めての方を優先しようというところまでは皆から意見が出ていた。加えて、市内の学生を優先すべきではという意見については、委員それぞれに意見があるようなので、この取り扱いについては次回改めて協議したい。ど

のように配慮すべきか意見をまとめてきていただくようお願いする。よろしいか。

(「はい」という声あり)

(3) その他

三浦委員長
小寺書記

全員協議会での報告事項等について小寺書記からあるか。
開催日時を今回決めたので、6月定例会議最終日の全員協議会で全議員にお知らせするのがよい。まだ詳細はこれからという部分もあるので、まずは日時の確保ということで三浦委員長から口頭でご説明いただく形でどうかと思っているがいかがか。

三浦委員長

それでよいかと思う。本日の決定事項のみお伝えし、詳細については別途ご連絡をすると全員協議会で報告する。

2 SNSを活用した議会情報の発信について

(1) 他議会の取組確認

三浦委員長

先般小川委員からもご指摘があり、他議会の取り組み等を確認した。配信資料について小寺書記から補足説明をお願いする。

小寺書記

(以下、資料をもとに説明)

三浦委員長

副委員長から何か補足はあるか。

村武副委員長

前回協議していただいてからT w i t t e rを見ていただいたのではと思う。実際に見ていただくとわかると思うが、詳細まで公開しているところはほぼなく、今日はこういうことがあったといった事実のみとされている。前回の協議で、拡散する目的など質問された委員がいたが、先日の浜田高校H I R A K Uでも意見があったが、ほとんどの高校生が議会だよりを読んでおらずケーブルテレビも視聴していない。10代20代のいわゆるZ世代が最も利用しているSNSはT w i t t e rだという調査結果も出ているので、SNSの活用は有効なのではないかと思っている。

先ほど小寺書記からも説明があったが、ほとんどの議会が運用指針などを作成しているので、そこはしっかりつくる必要がある。

F a c e b o o kやT w i t t e rは投稿の閲覧数などが細かく見えるので、いいねの数やフォロワー数だけでは閲覧数ははかれない。そういった意味でもSNSに取り組んでみたら有効なのではと感じている。

資料に株式会社POTETTOの、Z世代にも届くという資料がある。主にTwitterに関する調査も載っているので皆にも見ていただきたい。

三浦委員長

POTETTOというサービスの紹介だが、これはどこで紹介されたのだったか。

小寺書記

先般5月上旬あたりで、マニフェスト研究所が共催なりされている形の、地方議会サミットで多数の講師がいろいろ話された中で、参加された議員から情報提供をいただき、その内容が今ごらんいただいている資料である。

三浦委員長

議論の参考にしていただければ。今説明のあった内容に対してご意見やご質問はあるか。

小川委員

議会事務局の方が担われている事例が非常に多い。その負担感はどうなのか。フォロワー数が全てではないという説明もあったが、SNSで議会の情報を得たい人はごくわずかではと思っている。Z世代に対する情報発信の必要性について言われるが、そういったことを研究し、必要性を感じられているところについてはそれなりの取り組みもされているだろうが、私としてはそれだけの労力を使っても、興味を持つ市民はほとんどおられないのではと感じている。私自身はそこまでの必要性は現時点で感じていない。会派内で意見交換もしているが、年齢的にも高めの会派なのでそういうものに苦手意識があるのは確かだが、議論の現状はそういう感じだった。

三浦委員長

費用対効果や労力に対する効果がどれほどかはもちろん検証しながら、さまざまな方法があるので検討していく必要はあると思うが、先般浜田高校HIRAKUの授業に伺った際、はまだ議会だよりやケーブルテレビを見ているか尋ねたところ、ほとんど見てない。情報が届いてない。ということは既存メディアや広報の仕方では彼らが情報を取ることはない。つまり新しい何かを考えなければいけない状況にはあるかと思う。それが今提案しているTwitterやYouTube、それがよいかどうかはさまざまあると思うが、ではそれにかわる何をすべきかという議論はしていかなければいけない。我々は今SNSの活用を提案しているが、ほかにどういったやり方があるのかは委員にもしっかり考えてご提案をいただきたい。よろしく願います。

大谷委員

導入年月に対してフォロワー数は伸びてないのが各市の状況だというのがこの表から受けとめられる。したがって、若い方だけでなく市民全体がまだこうしたものが必要だという向きになってないとも受け取れる。当然研究もし、検討もし、推移は見ていかなければと思うが、今積極的にこうした発信をするよりも、顔と顔を合わせる接点を増やししながら、議会活動を知っていただく努力をするのが優先ではないだろうか。

三浦委員長

対面でどのような形でやるか。市民一日議会のやり方でも例えば学生を対象に設けるなども一つの方法かと思う。そうした具体的な提案をお待ちしている。案があればぜひこの委員会のテーブルに載せていただきたい。

T w i t t e rもそうだが、議長団に毎定例会議後にハイライトを少し話してもらうような番組をY o u T u b eで配信したらどうかということも先般提案していたのだが、これについてご意見は。

肥後委員

私もT w i t t e r、F a c e b o o k、L I N E、I n s t a g r a m等々やっているが、最初はフォロワー数は確かに伸びない。理由としては情報発信の頻度が少ないと目に触れる機会が少ない。ただしフォロワー数が1人から10人くらいまで増えると加速度的にフォロワーが増え、なおかつ自分の予期しないところで自分の投稿が見られていて、思わぬところから意見や提案をいただくことが今でも多数ある。それがとても参考になる意見で、役立っているのが現状である。そうなると市議会としても広報の活用になるし、何より遠い存在であると思われる議員のフォロワーが増えることで直接対面したことはないけれど何となく知っているということにつながり、実際に対面した際に打ち解けやすいという部分もあるかと思うので、こういう取り組みは浜田市議会、特に議会広報広聴委員としても積極的にやっていきたい。確かにかける時間に対してどれほどの効果があると言われると難しい部分はあるかもしれないが、個人的には決裁が要らない部分で投稿ができればやってみたい。

大谷委員

論議の視点として区別しておかなければいけないことだと思うが、議会としてすることと一個人としてすることは明確に分けて対応していかねばならない。個人でやるなら個人の責任でされ

ばよい。議会として議会事務局の方にも手伝っていただきながらするかどうかについては、その成果が期待できる状況でないとなかなか踏み込めないのでは。

小寺書記

事務局の労力という話に補足するが、聞き取りをした議会事務局は特に負担は感じておらず、開催通知や様子の投稿を流利的に日々の業務でされているという発言をいただいた。何か問題があったか、不適切なコメントがあったかどうかも聞いてはみたが、あまり大きな問い合わせはないところが多かったのと、一つ、変なコメントがあった際には削除対応はしているとのことだった。その辺は運用マニュアルを定めるところで整理していくようになるのかと感じた。

事務局が運用しているところが多いが、議員が運用する選択肢もある。文案を考えていただくのが正副委員長なので、投稿は例えば議会広報広聴委員会でやることも一つのやり方かと思う。その辺も含めて議論いただけたら。

三浦委員長

さまざまに意見があるのと、実感値としてSNSを個人的にされている方もいればされてない方もいる。それぞれの選択だと思う。提案するに当たり、こういうツールのどういう点がメリットなのかどうか、これが全てではないということは重ねて申し上げるが、少し理解を深めるという意味でも、デジタルを活用した広報広聴のあり方という参考資料をお送りした、こういった方に、当委員会の研修費を利用してオンラインないし視察で勉強会をするのもどうかと思うがいかがか。

意見なしか。こういったデジタルを使った広報広聴のやり方がどうなのかという現状を、専門知識を持つ方に講師になっていただき勉強してはどうかという提案だが。

小川委員

そういう問題意識を持たれた議会が講座などを積極的に受講されるのはよいが、私としてはそこまでの必要性はまだ感じてない。専門的な知識を持っておられる方はメリットの部分は熟知されているだろうし、その視点でいろいろ説明はされるだろうが、浜田市議会として、先ほどおっしゃったようにはまだ議会だよりもなかなか目を通してもらえてない中で、こういうものを活用して知っていただくためにこれが必要なのだというところまでの必要性を私自身は感じてない。そういう意見があるだろうと想像はつく

が、受講してまで積極的に学んでいこうというほどの必要性は感じていない。

三浦委員長

議会改革推進特別委員会でもSNSの活用は触れられているものなので、私は議会広報広聴委員長として広報広聴にデジタルをどう持ち込むか、手法については議論の余地が大いにあると思うが、こうした視点を持って取り組まねばいけないと強く認識していることを改めて皆にお伝えしておく。今日は提案という形で、さまざま意見もあると思う。SNSの活用については現状を認識するところからやらないと議論が進まないかもしれない。どういう勉強の機会を設けるかは、改めて皆に提案したい。議会全体で取り組むことなので認識を整えていかないと、やることだけ先走っては意味がない。皆で理解を深めながら進めていきたい。

(2) その他

三浦委員長

ほかに何かあるか。

(「なし」という声あり)

3 その他

三浦委員長

小寺書記

小寺書記からお願いします。

レジュメに記載はないが皆にご協議いただきたいことが1点、確認しておきたいことが1点ある。

1点目が市議会ホームページのリニューアルについて。少し前の委員会で、今の市議会ホームページのどこが見にくいかわりに皆にご議論いただき、その辺をどうするかは今後になるかと思うが、令和5年度に向けて予算要求していくに当たり、市議会ホームページのトップページをリニューアルしてはどうかという話を正副委員長と検討している。具体的に費用が幾らくらいになるのか見積書も取らせていただき、トップページを別に用意してリンク先は現行のページを利用する方法だと、制作費が約130万円、年間保守料金が約3万7千円という見積りをいただいている。130万円の内訳については素材写真の撮影や運用体制など細かいものはあるが、精査できる部分もあるかと思っている。まずは130万円と年間3万円をかけてホームページをリニューアルしていくことを委員がどう思われるか、ご確認したい。

三浦委員長

概算見積りということで事務局に取っていただいた。内容については多少精査する部分もあるかと思うが、一つの基準としてはそのくらいの事業費になるかと思う。リニューアルは費用も含めこれから先になるかと思うが予算要求の必要があるので、委員会で必要性が認められれば議長団にも報告する。我々正副委員長としては妥当な数字だと思いつつ、広報広聴機能の強化という意味ではホームページリニューアルは欠かせないだろうと感じている。改めてその金額を含めて皆にご協議いただきたい。

川上委員

確かに必要だと思う。やるべきだと思っている。

大谷委員

ホームページの作成は以前業務としてやったことがある。130万円という数字は高いように見えるかもしれないが、妥当な金額だと思う。基本的にホームページは1年に1回変えるような気で作らないと人はなかなか見に来ない。こういうところにある程度のお金をかけるのは必要だと思っている。ただ、ホームページの構成を考えたときに、常に行政に頼まないといけないよりは幾らか簡便に細工ができるようなシステムにしておいたほうが、より安上がりの構成になろうかと思う。今後業者とやり取りする中で考えたほうがよい。

川神委員

私も同様に必要不可欠なものだと思っているからよいが、このウェブデザイン、見積もりはどのような流れを使っているのか。

小寺書記

今回の参考見積りは市内事業者にお願いした。今の市ホームページは政策企画課が持っている保守会社があるので、そちらにも問い合わせをしている。

河上局長

7月にサマーレビューがあり、今後長期にわたってどのような予算を考えていくかという計画的なものなので、今回はまずそれに上げさせていただくが、上げたら即予算がつくというものではないということをご承知おき願う。事務局としてもほかの優先順位で提出していこうと思っているので、そういう面では必ずということはないとご承知おきいただければ。

三浦委員長

もちろんである。ほかに。本件についてはほかにないようなので、委員会として必要性を認め、要望していこうということでもめたい。よろしく願います。

もう1点。

小寺書記

地域協議会との意見交換会の関係である。前回、委員会が終わ

った後に班長会ということで、各班の意見交換会の進捗状況を確認した。こちらから地域協議会の会長宛てに今年も意見交換会をやらせてほしいので今後調整させていただくという依頼文を出してはどうかという話をした。こういった文書を出すに当たり、委員にもご承知おきいただきたい。よろしく願います。

三浦委員長

地域協議会と各班とでそれぞれやりとりしていただいていると思うが、改めて議長名で文書を出させていただきたいので、ご理解、ご承知おき願う。

ほかにないか。

大谷委員

コロナの中でいろいろな接点を求める動きがある。議会基本条例にも載っている議会報告会が可能になる状況ではないかと思うが、そのあたりの論議をするべき時期に来ているように思う。

三浦委員長

ご指摘のとおりかと思うが、これまで全員協議会でも説明してきているように、議会基本条例に書かれている議会報告会はやっていかなければならないことだが、やり方について不特定多数の方が多く集まりワークショップ形式でやる場合は感染対策が十分に取れないため、それに配慮して市民一日議会や地域協議会との意見交換会を代替という形でやってきている。したがって解釈としては議会基本条例に反すとか、そこに記されているものに取り組んでないという認識は、少なくとも私としては持ってないし、これまでもそういう指摘を全員協議会で受けて、そのように答弁している。そういった理解で今まで進めてきているが、今まで議会報告会や地域井戸端会に参加されてきた方々、そういうスタイルで拾い上げてこられた声が拾いにくくなっているというのは一つの意見としてあるかと思うので、今後の広聴機能のあり方については現在の状況を踏まえつつ、どういう形どういう取り組みがよいかは議論していく段階にあると思っている。問題提起としては指摘のとおりかと思うので、これも改めてテーブルに載せて次回以降の委員会でも取り扱って皆に意見を聞いていきたい。

ほかにあるか。

小寺書記

ほかになければ次回委員会の日程を確認させていただきたい。7月22日にはまだ議会だよりV o 1. 66の初稿を確認するよう設定してはいるが、今日は市民一日議会の話などもあったので、主権者教育について光延先生と調整の場が調うようなことがあれば、

三浦委員長

別途皆にも調整をお願いすることがあるかと思うが、一応は7月22日ということでご了解いただければ。

一応次回は7月22日金曜日の9時からよろしく願います。

(「はい」という声あり)

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

では以上で議会広報広聴委員会を終了する。

[12時 11分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

議会広報広聴委員会委員長 三浦 大紀